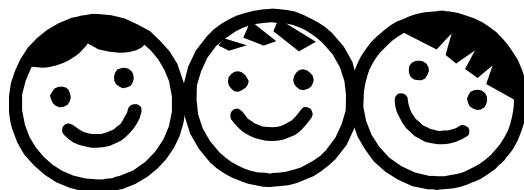


高 校 生 の 男 女 共 同 参 画 と 男 女 間 の 暴 力 に 関 す る ア ン ケ ー ト 調 査 結 果 に つ い て



平成 2 5 年 1 0 月

鹿角市市民部市民共動課

調査の概要

1. 調査目的

男女共同参画社会の実現に向けて、男女共同参画について考えるきっかけづくりや人権教育の推進などを図り、男女がそれぞれを認め合い、思いやる関係の構築と格差・差別、暴力のない社会を目指すため、潜在化しがちなDVについての認識を浸透させていきたいと考えています。

本調査では、高校生における男女共同参画と異性に対する暴力の意識に関する実態の把握を行うことで、今後の若年層に向けた男女共同参画事業の参考とし、男女共同参画施策に役立てていくことを目的としています。

2. 調査対象

鹿角市内の公立高校(花輪高校、十和田高校)に在籍する高校2年生を対象としました。

3. 調査方法

鹿角市内の協力校に対して、調査表の配布・回収を行いました。

クラス担任を通じて生徒に調査票を配付してもらい、調査票の記入後、回収用封筒に入れ回収を行いました。

4. 調査期間

平成25年7月12日(金)から7月19日(金)まで

5. 調査内容

結婚や性別役割分担に対する意識について、学校における男女共同参画について、デートDVの認知度について、暴力に対する考え方や見方の違いについて

6. 調査結果

調査票送付数	242
調査票回収数	232
回収率	95.9%

7. アンケート集計結果の公表について

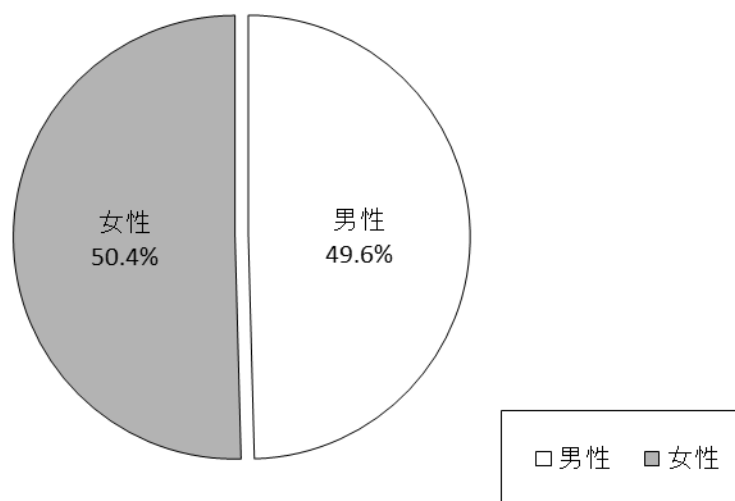
本調査の集計結果は、各校に配布するほか、市ホームページ上で公開します。また、鹿角市男女共同参画推進会議に報告するとともに、必要に応じて市民に周知し、若年層に向けた男女共同参画施策の企画立案の基礎資料といたします。

その際、学校名の記載は行わず、統計的に取り扱うこととします。

※調査結果の割合は、小数点以下第2位を四捨五入しており、一部合計がずれる場合があります。

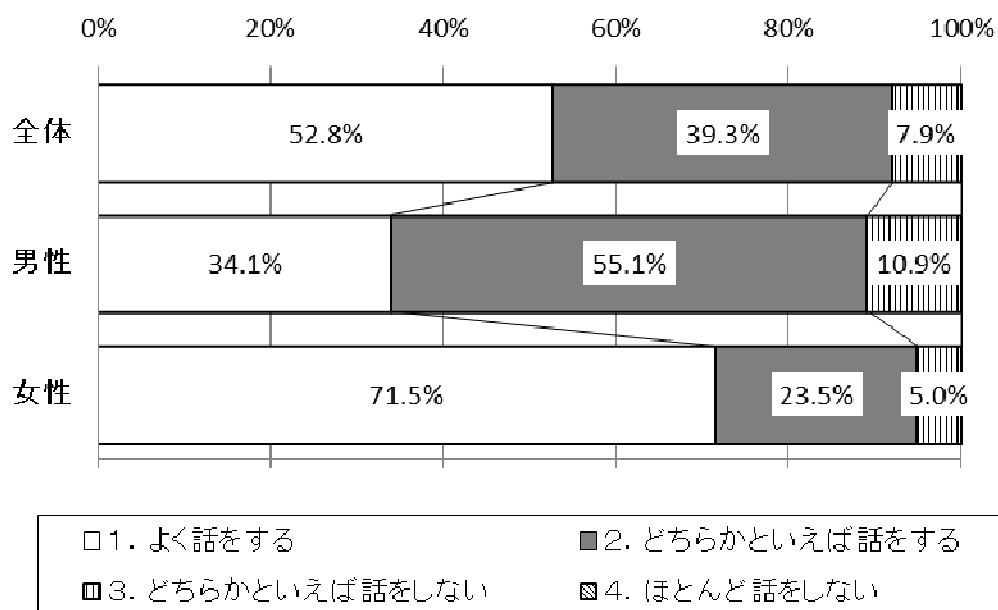
回答者の属性

1. 性別



回答者の男女比は、ほぼ同じです。(前回 H23 年度調査 男性 47.8% 女性 52.2%)

2. ふだん家族と会話する程度



《全 体》

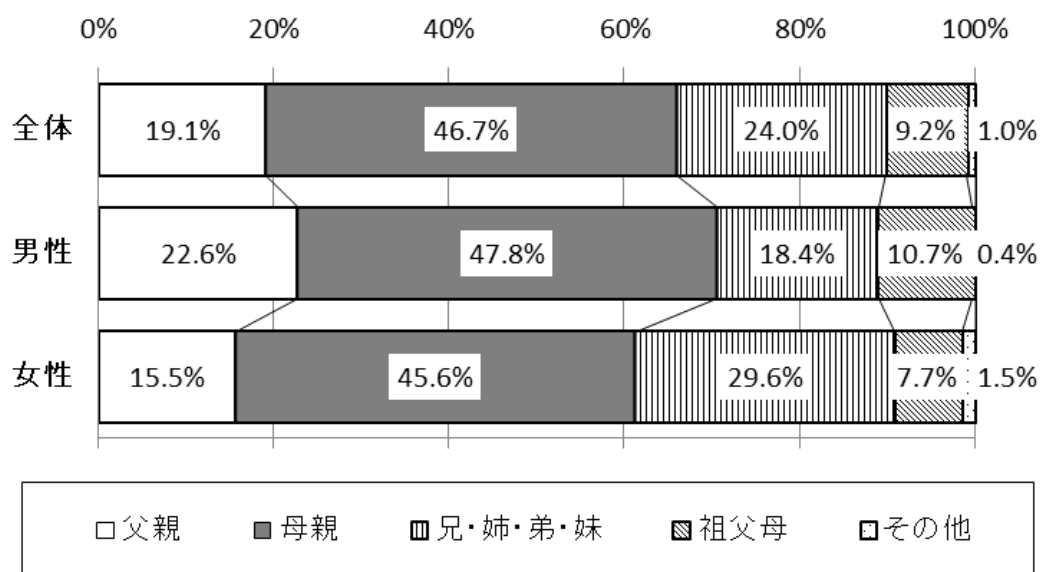
全体では、約半数が「よく会話をする」と回答しています。

《性 別》

性別でみると、女性は71.5%が「よく話をする」と回答しており、男性よりも約37ポイント高くなっています。ただ、男性も「よく話をする」「どちらかといえば話をする」を合わせると89.2%であり、男女のポイント差は大きくないようです。

一方、話をしない割合は、男性は10.9%で、女性よりも5ポイント高くなっています。なお、「ほとんど話をしない」は男女共に0%です。

3. よく話をする家族



《全 体》

よく話をする家族では、「母親」(46.7%) に次いで「兄・姉・弟・妹」(24.0%) であり、「父親」と回答したのは 19.1%にとどまっています。その他には、「ペット」という回答がありました。

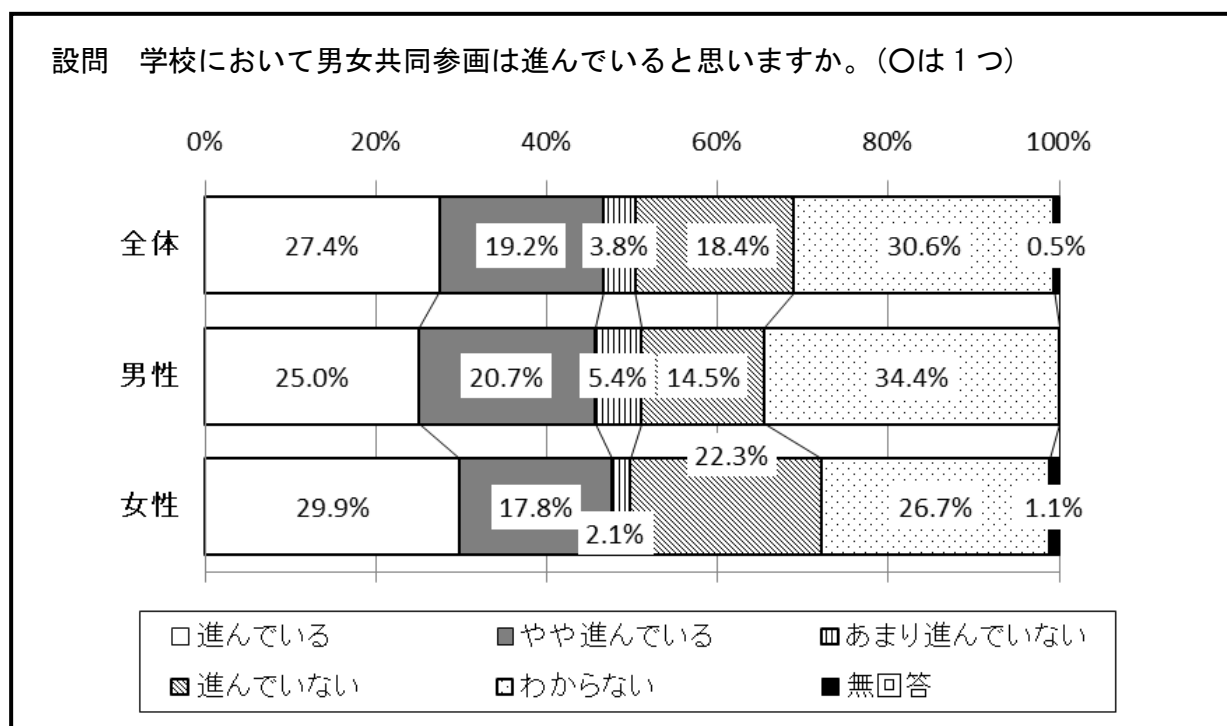
《性 別》

性別でみると、よく話をする家族は、女性が男性より「兄・姉・弟・妹」の割合が高く、男性は女性より「父親」の割合が高くなっています。

各項目の割合は平成 23 年度調査時とほぼ同じ割合になっています。

調査の結果

1. 学校における男女共同参画について



《全 体》

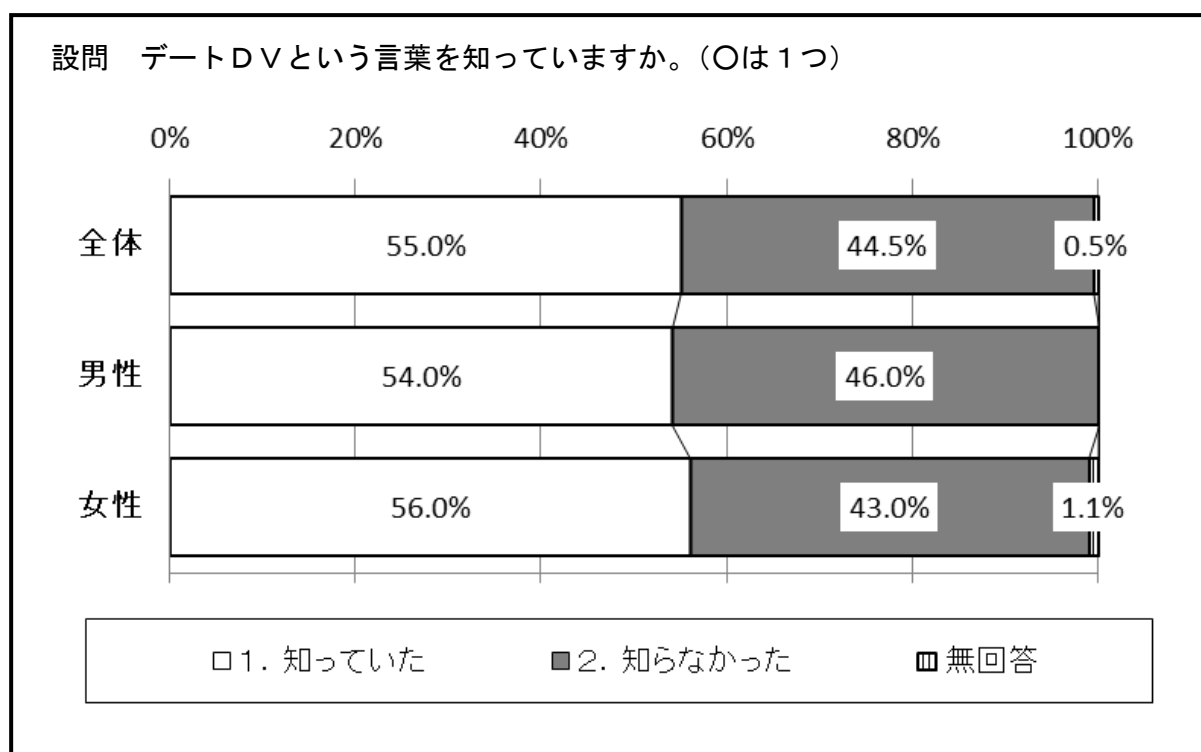
平成 23 年度調査と比較すると、前回は、進んでいる割合（「進んでいる」「やや進んでいる」合計）が 54.8%であったのに対し、今回は 46.6%と約 8 ポイント下がっています。一方、進んでいない（「あまり進んでいない」「進んでいない」合計）は今回 22.2%で、前回の 7.1%より 15.1 ポイント高くなっています。一方で、約 30%が「わからない」と回答しており、男女共同参画の認知度がまだ十分ではないことや、普段の学校生活で男女共同参画をあまり意識していないことが推察されます。

《性 別》

性別でみると、学校における男女共同参画について、女性は 29.9%が「進んでいる」と回答しており、男性より約 5 ポイント高くなっています。ただ、「進んでいる」「やや進んでいる」を合計すると、男女のポイント差（男性：45.7%、女性：47.7%）は小さくなっています。

平成 23 年度調査よりも、男女ともに「わからない」割合は下がり、男女共同参画の認知度が高まりつつあることがうかがえますが、「進んでいない」割合が男性で約 12 ポイント、女性で約 21 ポイント（平成 23 年度調査「進んでいない」男性 2.3%、女性 0.7%）と高くなっています。

2. デートDVの認知度について



《全 体》

全体では、半数以上が「知っていた」と回答しています。

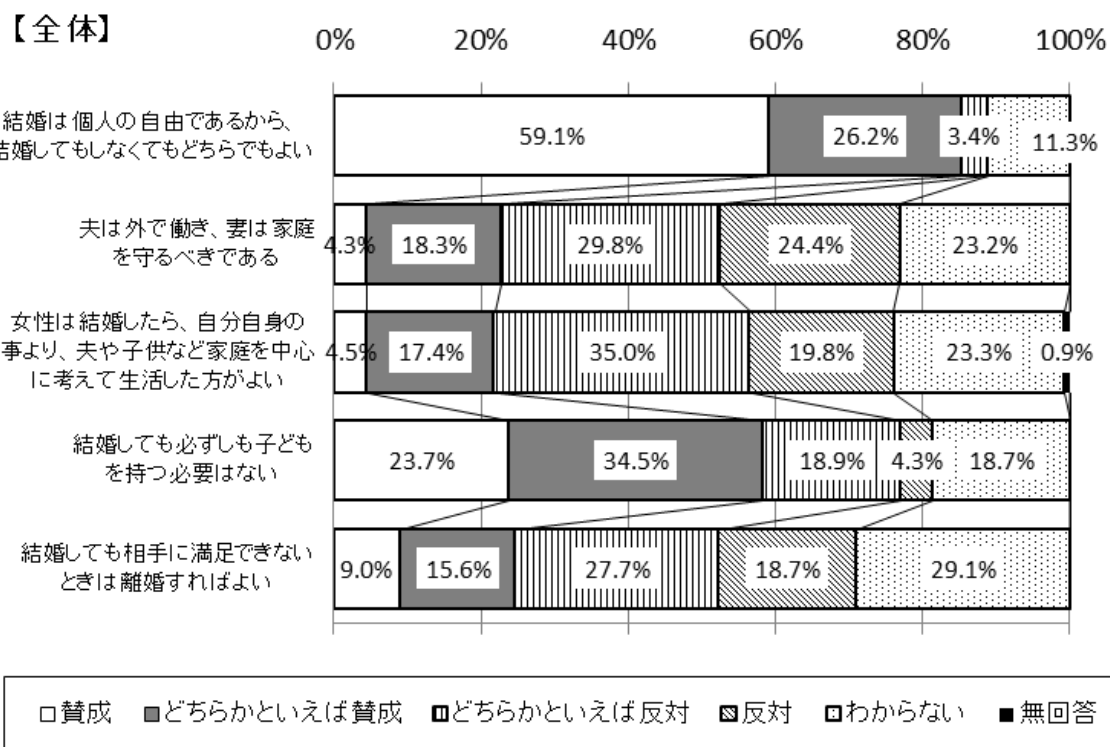
《性 別》

性別でみると、「知っていた」割合（男性：54.0%、女性：56.0%）と「知らなかった」割合（男性：46.0%、女性：43.0%）は、男女の差は小さくなっています。

男女とも平成23年度調査時より「知っていた」割合が約30ポイント高くなっており、デートDVの認知度及び浸透度が、各種取り組みにより改善されてきたことが分かります。

3. 結婚、家庭、離婚に対する考え方

設問 結婚、家庭、離婚について、あなたの意見を答えてください。(○はそれぞれに1つ)



《全 体》

「結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」という考えに対して、「賛成」(59.1%)「どちらかといえば賛成」(26.2%)を合わせると85.3%になっていて、高い割合を示しています。

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考えに対しては、反対する割合のほうが高く、「反対」(24.4%)「どちらかといえば反対」(29.8%)を合わせると54.2%で、賛成する割合よりも約30ポイント高くなっています。

「女性は結婚したら、自分自身の事より、夫や子供など家庭を中心に考えて生活した方がよい」という考えに対しては、反対する割合のほうが高く、「反対」(19.8%)「どちらかといえば反対」(35.8%)を合わせると、賛成する割合よりも約32ポイント高くなっています。

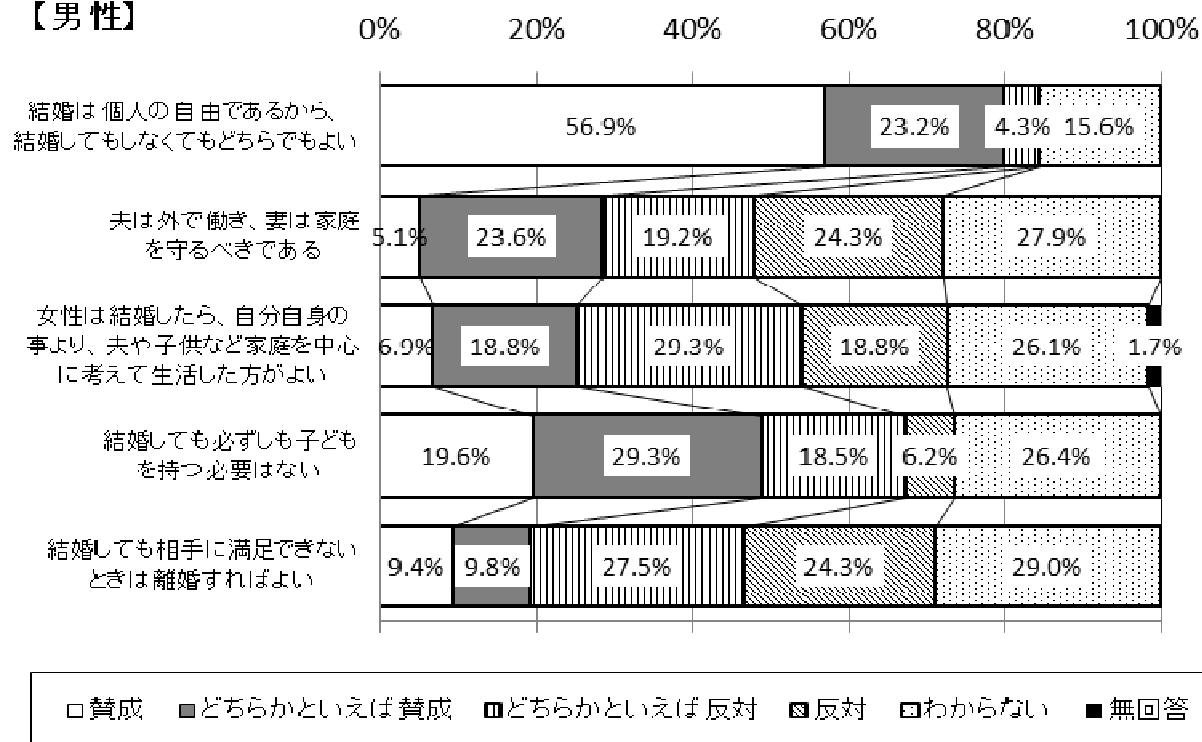
「結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」という考えに対しては、賛成する割合が高く「賛成」(23.7%)「どちらかといえば賛成」(34.5%)を合わせると58.2%となっています。

「結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい」という考えに対しては、反対する割合が高く、「反対」(18.7%)「どちらかといえば反対」(27.7%)を合わせると、賛成する割合よりも約20ポイント高くなっています。

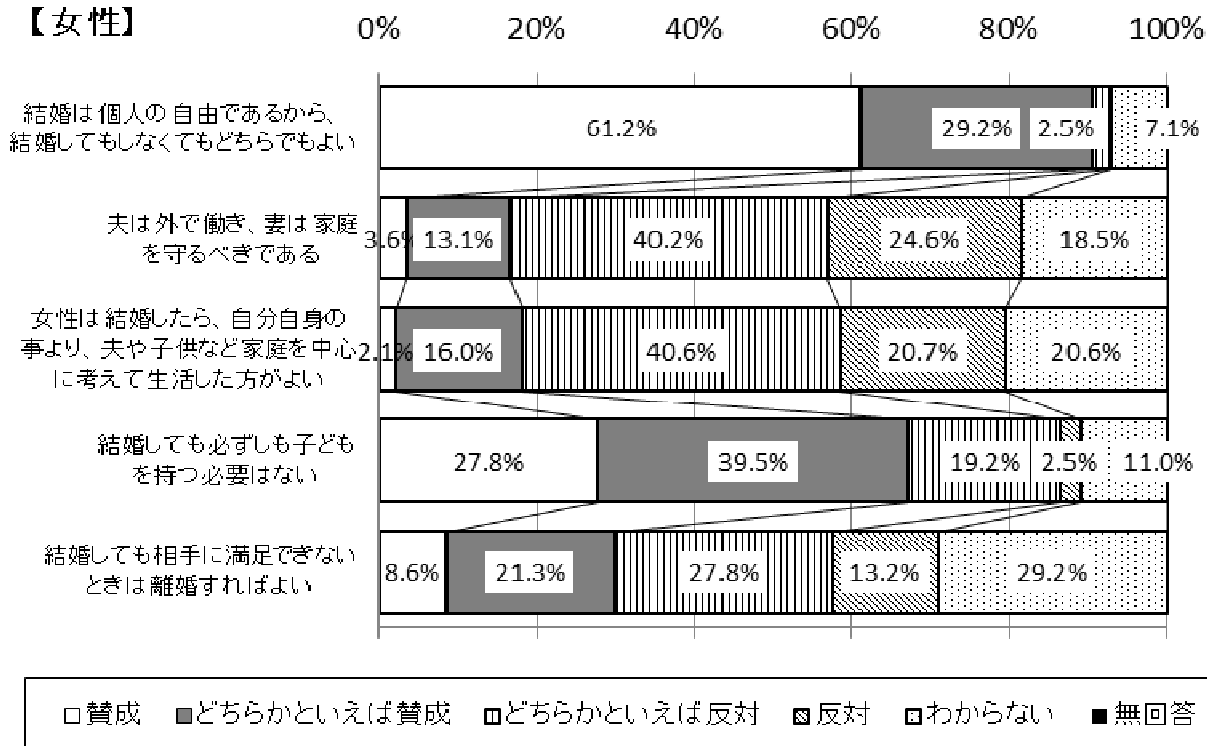
全ての項目で平成23年度調査とほぼ同じ傾向になっています。

設問 結婚、家庭、離婚について、あなたの意見を教えてください。(〇はそれぞれに1つ)

【男性】



【女性】

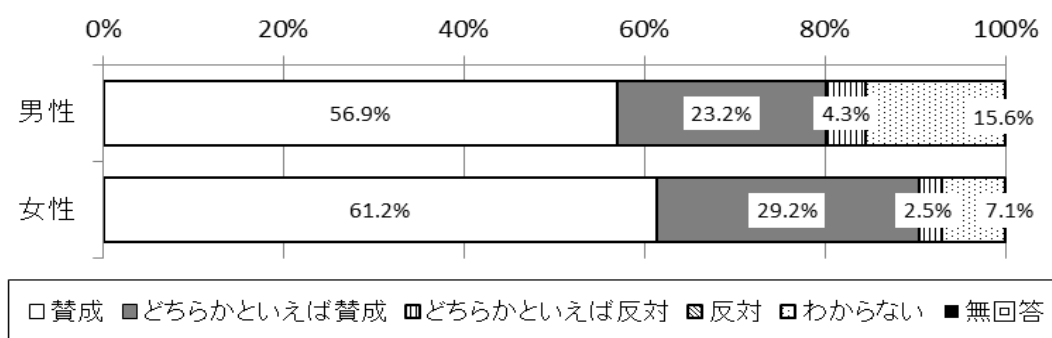


《性 別》

男女ともに結婚は義務ではなく自由と考える割合が高くなっています。

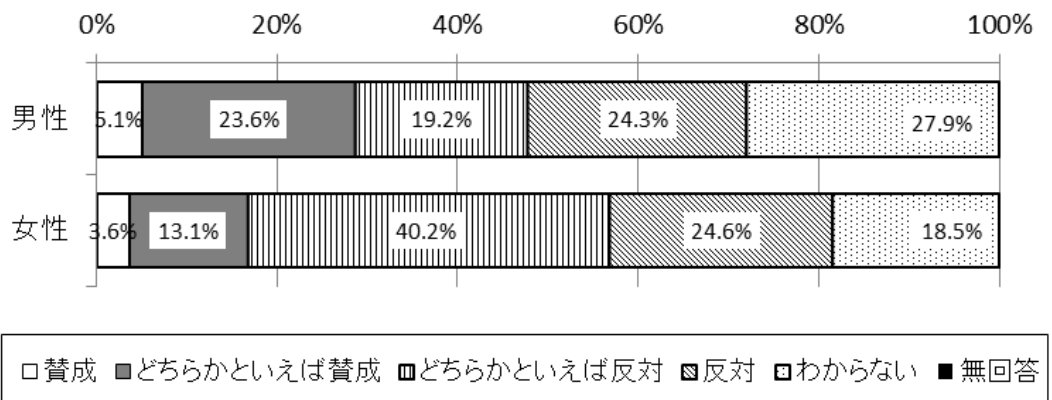
男性よりも女性で、性別役割分担に対して否定的な傾向がうかがえます。また、概ね男性のほうが女性よりも「わからない」と回答した割合が高くなっていて、結婚や家庭に対する現実感が希薄であると推察されます。各項目で平成 23 年度調査と同じ傾向となっています。

(1) 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい



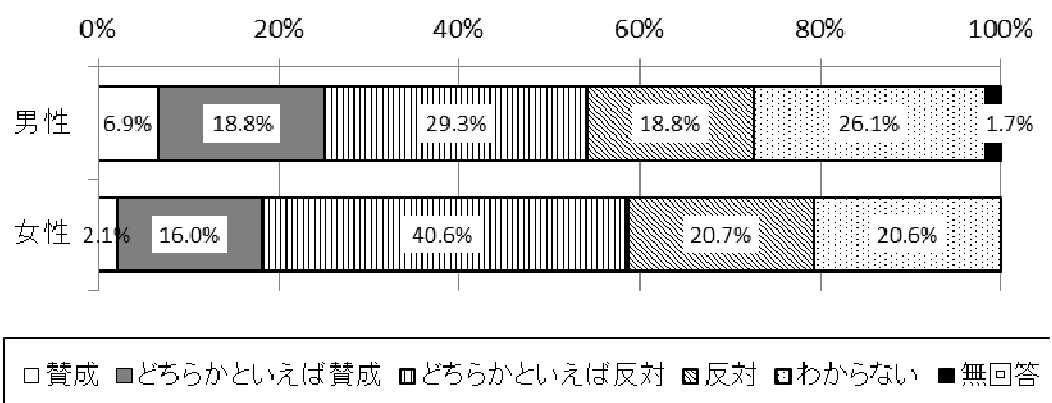
「結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」という考えに対して、女性は90.4%（「賛成」「どちらかといえば賛成」合計）が賛成意見であり、男性よりも約10ポイント高い割合を示しています。

(2) 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである



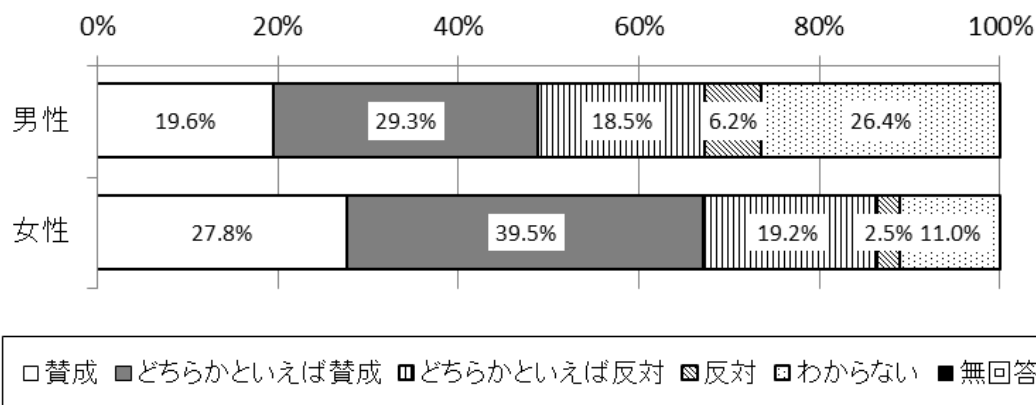
「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考えに対しては、女性は64.8%（「反対」「どちらかといえば反対」合計）が、反対意見であるのに対して、男性は43.5%で、約21ポイントの差があります。

(3) 女性は結婚したら、自分自身の事より、夫や子供など家庭を中心に考えて生活した方がよい



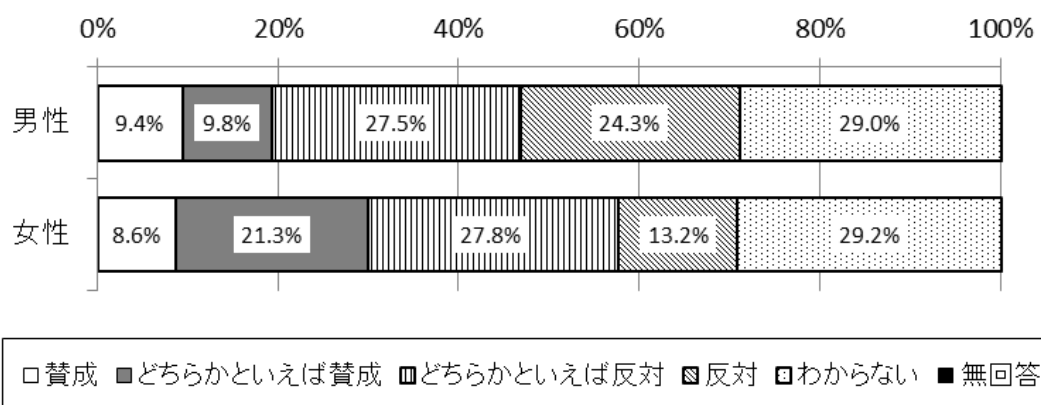
「女性は結婚したら、自分自身の事より、夫や子供など家庭を中心に考えて生活した方がよい」という考えに対しては、男女の意識差は小さくなっています。また、男女とも賛成意見より反対意見の割合が高くなっています。「夫は仕事、妻は家庭」と決め付けず、夫婦どちらも平等にという意識が浸透してきていることが推察されます。

(4) 結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない



「結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」という考えに対しては、女性で 67.3%（「賛成」「どちらかといえば賛成」合計）と賛成する割合が高く、男性の 47.3%を約 18 ポイント上回っています。

(5) 結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい



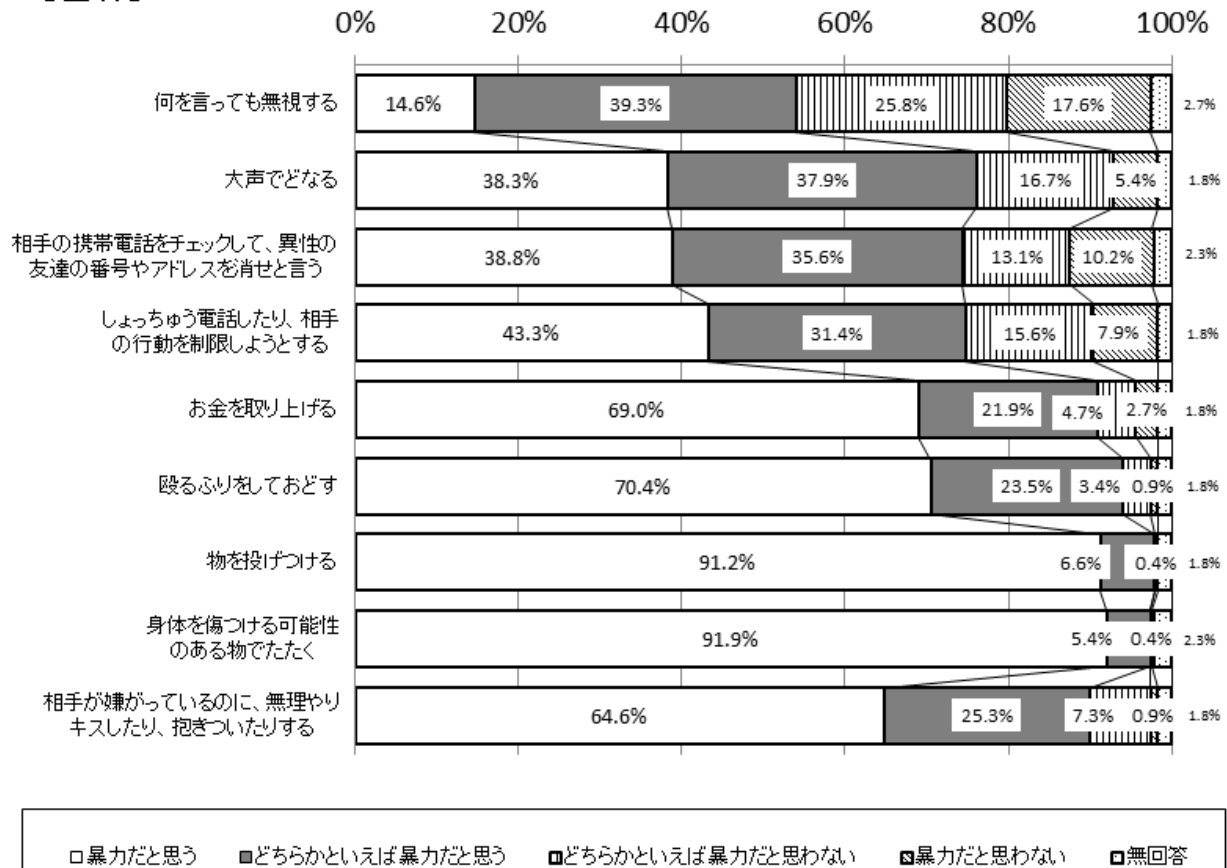
「結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい」という考えに対しては、男女ともに反対の割合（「反対」「どちらかといえば反対」合計）が高くなっていますが、男性（51.8%）の方が女性（41.0%）よりも約 10 ポイント上回っています。

4. 暴力に対する意識について

設問 あなたは、夫婦や恋人同士で起こる次のようなことを暴力だと思いますか。

(○はそれぞれに1つ)

【全体】



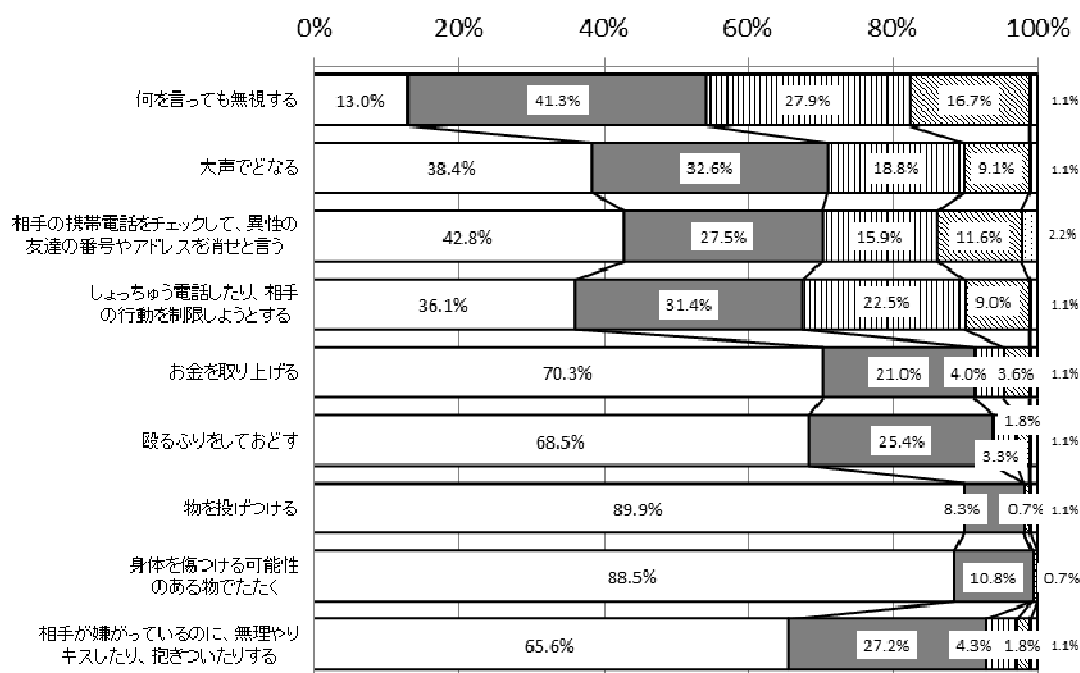
《全 体》

DVにあたる行為を、暴力だと認識しているかどうかについて、「物を投げつける」「身体を傷つける可能性のある物でたたく」「相手が嫌がっているのに、無理やりキスしたり、抱きついたりする」といった、身体的暴力及び「殴るふりをしておどす」「お金を取り上げる」に対しては、大半の人が「暴力だと思う」または「どちらかといえば暴力だと思う」と回答していて、暴力であると考えて意識が高くなっています。しかし、「何を言っても無視する」「大声でどなる」「相手の携帯電話をチェックして、異性の友達の番号やアドレスを消せと言う」「しょっちゅう電話したり、相手の行動を制限しようとする」では、「暴力だと思う」の回答は14.6～43.3%であり、身体的暴力などに比べて精神的暴力は、暴力であるという認識が低いと言えます。全ての項目で平成23年度調査と同じ傾向になっています。

設問 あなたは、夫婦や恋人同士で起こる次のようなことを暴力だと思いますか。

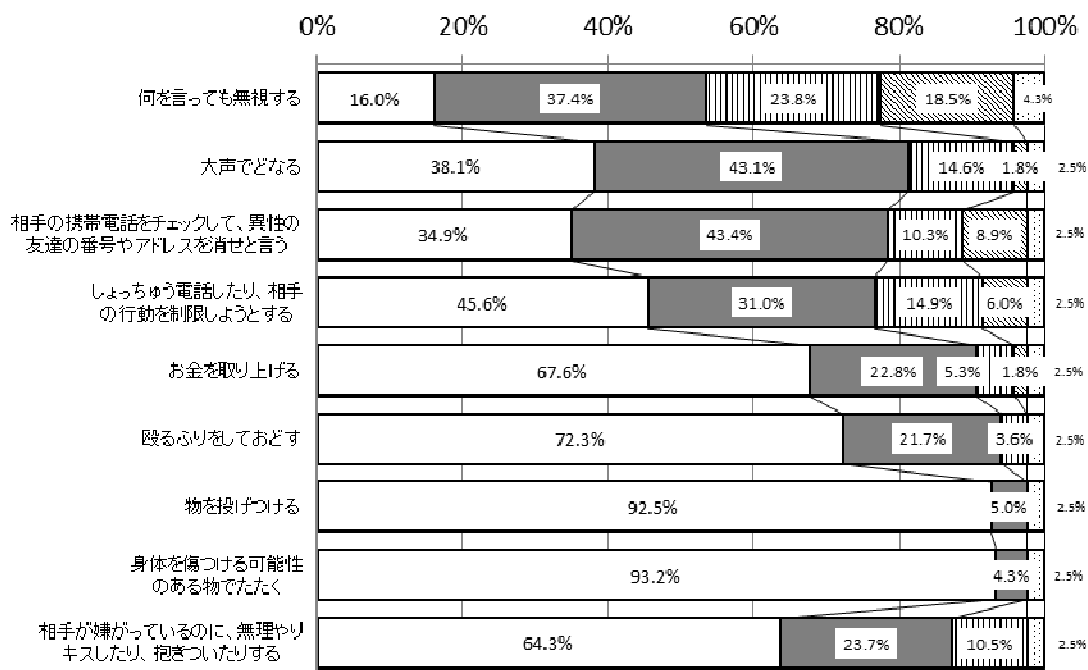
(○はそれぞれに1つ)

【男性】



□暴力だと思う ■どちらかといえば暴力だと思う ▨どちらかといえば暴力だと思わない ▩暴力だと思わない □無回答

【女性】



□暴力だと思う ■どちらかといえば暴力だと思う ▨どちらかといえば暴力だと思わない ▩暴力だと思わない □無回答

《性 別》

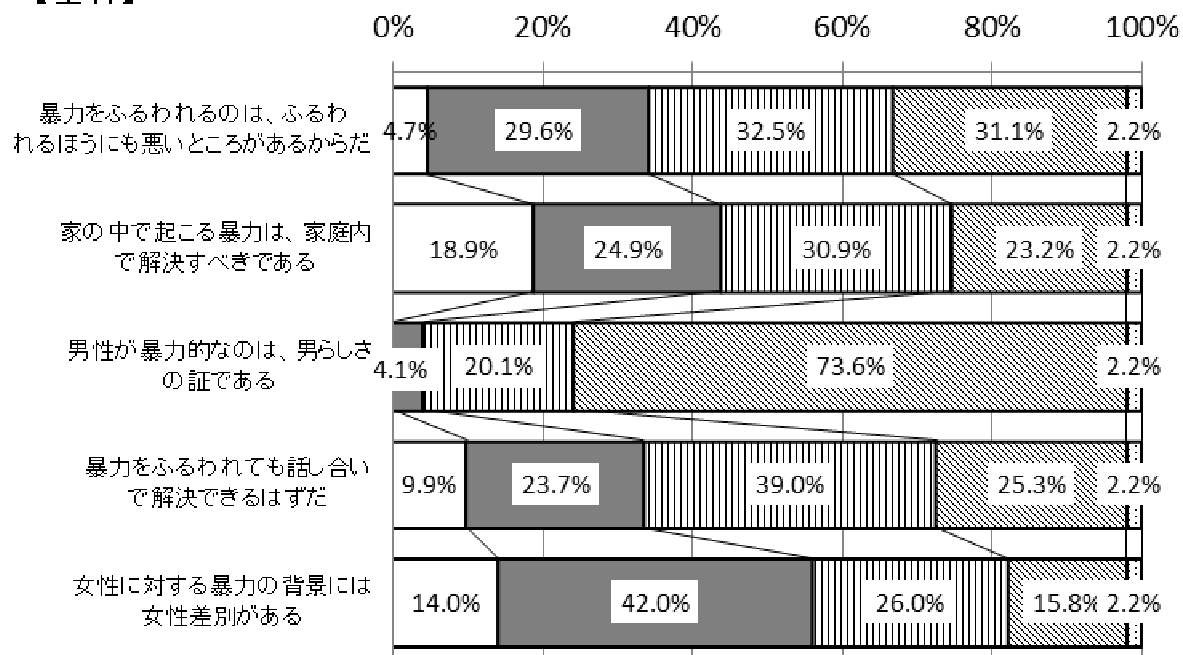
身体的暴力、経済的暴力に対する暴力の認識に比べて、精神的暴力や行動の制限が暴力という認識が低い傾向は、男女ともに同様です。

「相手の携帯電話をチェックして、異性の友達の番号やアドレスを消せと言う」では、女性において暴力という認識が低く、「しょっちゅう電話したり、相手の行動を制限しようとする」では、男性において暴力という認識が低くなっています。

設問 次の考え方について、あなたの考え方に一番近いものに○をつけてください。

(○はそれぞれに1つ)

【全体】



□そう思う ■どちらかといえばそう思う ▨どちらかといえばそう思わない ▩そう思わない □無回答

《全 体》

暴力に対する考え方について、肯定意見（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計）と否定意見（「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」の合計）でみると、「暴力をふるわれるのは、ふるわれるほうにも悪いところがあるからだ」では、63.6%が否定意見ではあるものの肯定意見も34.3%になっています。

「家の中で起こる暴力は、家庭内で解決すべきである」は、否定意見が54.1%とやや高いものの肯定意見も43.8%になっています。

「男性が暴力的なのは、男らしさの証である」は、否定意見が大半を占めています。

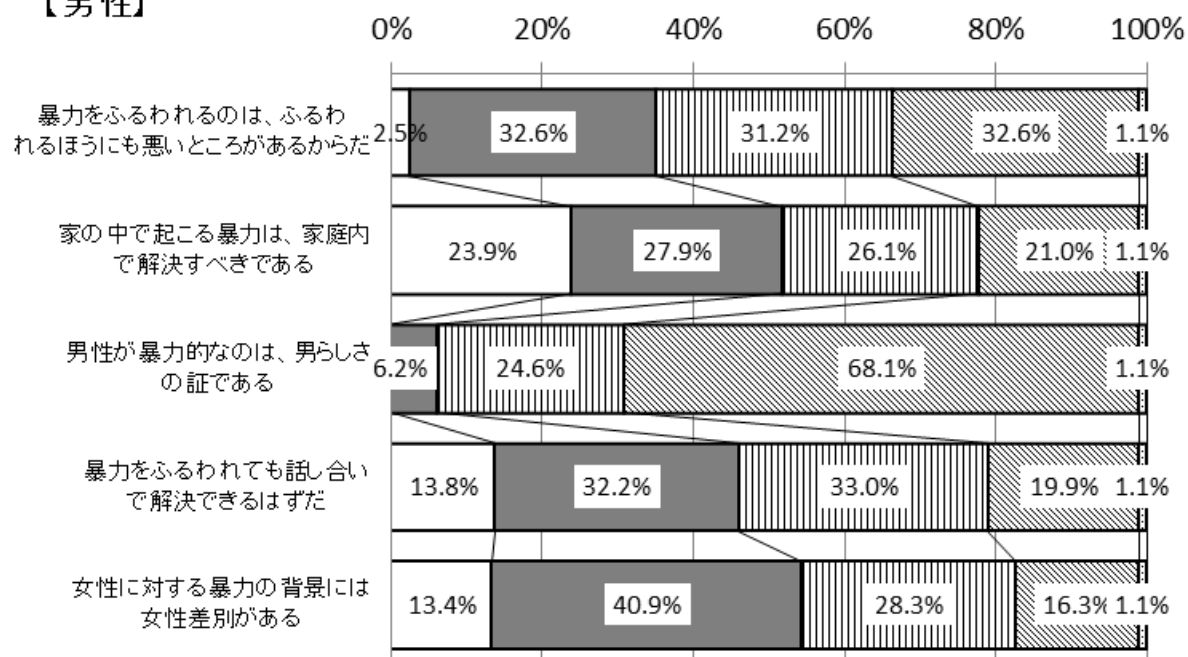
「暴力をふるわれても話し合いで解決できるはずだ」は、否定意見が64.3%ですが、肯定意見も33.6%になっています。

「女性に対する暴力の背景には女性差別がある」は、肯定意見が56.0%とやや高いものの否定意見が41.8%になっています。

全ての項目で平成23年度調査と同じ傾向になっています。

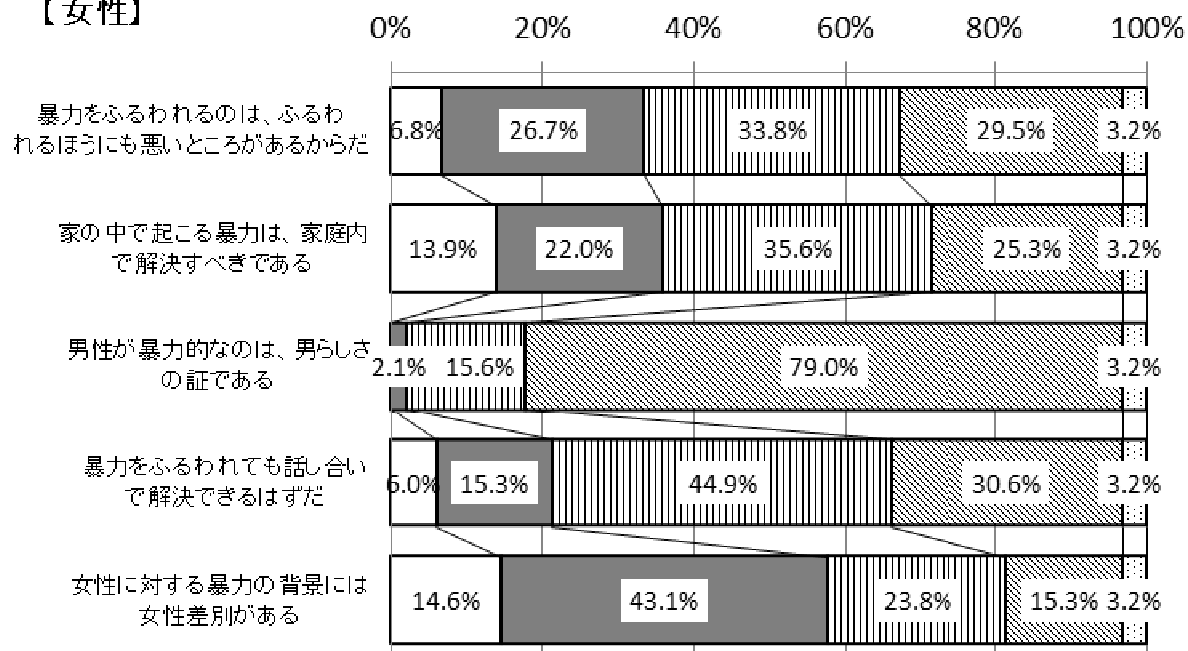
設問 次の考え方について、あなたの考え方に一番近いものに○をつけてください。
(○はそれぞれに1つ)

【男性】



□そう思う ■どちらかといえばそう思う ▨どちらかといえばそう思わない ▩そう思わない □無回答

【女性】



□そう思う ■どちらかといえばそう思う ▨どちらかといえばそう思わない ▩そう思わない □無回答

《性 別》

男性において、「家の中で起こる暴力は、家庭内で解決すべきである」(51.8%)「暴力をふるわれても話し合いで解決できるはずだ」(46.0%)の2項目で、女性よりも肯定的な割合が高くなっています。

男女ともに、「男性が暴力的なのは、男らしさの証である」について、否定的な認識が高く、90%以上の割合になっています。

自由意見のまとめ

アンケートの最後に、男らしさ、女らしさについて感じる事や人から言われて嫌に感じる事などを自由に記述する設問を設けました。以下、全ての意見を掲載いたしました。

- ・ 大事な物、大切な人を全力で守ってあげる
- ・ 自分で決めた道を進む それが男ってもん
- ・ 私を束ねないで
- ・ 優しい人がおとこらしい
- ・ 男なんだからなどと言われても、人によってはできることとできないことがあるので、嫌だと思う。
- ・ 自分が嫌だ、やめてほしいと言っているのに言い続けてくること。
- ・ 男なんだからそうゆう話はすきだろ。といわれるのがいやだ。
- ・ 今の時代、社会にでる女性も増え、学校でもクラスを仕切る女子も増えてきていることは良いことだと思う。家庭を持てば女性は家事に専念しなければならないなどとは思わない。女性も自由に生きるべきだ。
- ・ 男性は、男らしさを出す時に暴力をふるうことではなく、力持ちであるところや頼れるようなところを出せばいいと思います。人から冗談で言われたことでも、傷つくことがあります。そういうところを私自身も気をつけていきたいです。
- ・ 私は「女らしさ」を極たんに出すのは好きではないのであまり出しません。女子だといわれて差別されるのも好きではないので、日頃から自分でもできることは進んで行いたいと思います。
- ・ 「男は度胸、女は愛嬌」と言われるが言われているこっちは迷惑にしか思えない。「男だから泣いちゃいけない」とか「女だからもっと女らしくしろ」とかただの理想論だと思う。他人の理想を押しつけるのはやめてほしい。
- ・ 体や顔のことを他人と比べたりされること。男らしさは優しいことや、守る力があることを言うと思う。
- ・ 女だから家事しなければいけないこと
- ・ 「女なんだから」と言われて行動を制限されること
- ・ 女だから家事をやれっていわれるのはいやだ。
- ・ 女だから家事をやれと言われる。
- ・ 何でもかんでも女の子らしくしなさいと言われるのはあまり好きではない。女性が男性になっても男性が女性になってもおかしくない時代なのに、そういうことというのはあんまりだと思う。
- ・ 男らしさ、女らしさを考える前に、人として平等にするように考えることが大切だと思う。
- ・ わたしは勉強をしていて、兄弟がゲームをしているのに「長女だから」という理由で家事の手伝いを頼まれ、嫌だと思った。
- ・ 男らしさとか女らしさとか別に必要ないと思う。男らしくない女らしくない。だからといってその人にかわりはないんだからそれは「自分らしさ」というか何というか。他人にあれこれいわれたくはないと思う。
- ・ 相手がいやだと感じたら、それは全部暴力だと思う。

